

「ペトロのメシア告白」

2015年07月11日

ルカによる福音書9章18節～20節。イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。そこでイエスは、「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは答えた。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『だれか昔の預言者が生き返ったのだ』と言う人もいます。」イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「神からのメシアです。」

上記の出来事は、主イエスの生涯の曲がり角に位置づけられる。民衆に「神の国」のリアリティを示した「ガリラヤの春」の時代は終わり、受難に向かったの出発点になる出来事が記されている、主イエスは時が満ちたことを知って、意を決してエルサレムに上られる。深い祈りの後、弟子たちとの重要な問答がなされた。

主イエスは「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか」と問われた。弟子たちは三人の名を伝えた。一人は「洗礼者ヨハネ」である。彼は真っ直ぐに神を示し、身を挺して悔い改めを迫り、大きな宗教覚醒運動を展開した。最期は、ヘロデによって無残に首をはねられ殉教した。民衆はヨハネの生涯と殉教死に最大の敬意を表していた。二人目は「エリヤ」である。彼はたった一人で450人のバアルの預言者と400人のアシェラの預言者に立ち向かい、天から火を降らせ、ヤーウェが真の神であることを示した。イスラエルでは最も尊敬された預言者である。三人目は「預言者の一人」である。預言者は民衆からの迫害に耐え、ひたすら神の言葉を語った人々である。弟子たちは、あなたは群衆から最高の宗教者として評価されていると答えている。そこで、主イエスは「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と、人々の評価ではなく、弟子自身の実存をかけた応答を求められた。信仰は主イエスと自分の関係をはっきり確立することで、そこでのみ「私が私になる」アイデンティティが得られる。主イエスから主体的な応答を求められた時、例によって、ペトロが真っ先に「あなたは、メシアです」と答えている。「メシア」は「キリスト（救い主）」というヘブライ語である。ペトロはイエスを主・キリストと告白した。この「キリスト告白」がキリスト教信仰の核心である。この告白を受けて、主イエスは神から受けた十字架と復活への道を、弟子たちにはっきりと告げられた。

しかし、ペトロの「キリスト告白」に真実があったのか。「否」というしかない。ペトロが主イエスに求めた「キリスト」はローマ帝国の支配を打ち破り、政治的解放者としてのキリストであった。主イエスが啓示した「キリスト」は十字架のどん底に下り、自らの命を献げ、人間の罪を赦し、神との和解を与えるキリストであった。両者のキリスト理解には天と地ほどの違いがあった。だから、ペトロは間違いを犯し、主イエスを裏切る行為へと走ったのである。

クリスチャンは「キリスト告白」に生きている。しかし、自分の願望をキリストに押しつけ、主イエスの求めに応じていないのではないか。ペトロの「キリスト告白」を読むたびに、主イエスにどのように従っているかを問い返される。キリスト告白は主イエスの十字架によって、自分の生が神に赦されていることの感謝である。どんな人生であろうとも、神によって意味が与えられていることの喜びである。この感謝、喜びは赦された者同士、互いに共にあろうとする社会的な広がりへと突き動かされる。